

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：19520575
研究課題名（和文）「朝鮮出兵」の記憶と記録化に関する基礎的研究

研究課題名（英文）The Research for The Memory and Recording about “The Korean Invasion”

研究代表者

中野 等（NAKANO HITOSHI）
九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授
研究者番号：10301350

研究代表者の専門分野：日本近世史

科研費の分科・細目：

キーワード：豊臣政権 日朝（日韓）関係史 歴史認識 文禄・慶長の役

1. 研究計画の概要

日本が対朝鮮・中国意識を形成していく前提として、「朝鮮出兵」（大陸侵攻）がもつ意味はきわめて大きい。こうした関心から、研究の全体構想は

（1）豊臣政権が行った「朝鮮出兵」についてこまかな実証研究を積み重ねていくと、同時に

（2）この戦争がどのように記録され、近世以降どのように記憶・伝承されていったのかを検討することにある。

これまでの研究によって（1）については一定の成果をもっているため、本科研ではとりわけ（2）に主眼をおいて研究計画をたてた。これについて換言すると、この戦争がその後の日朝（日韓）、日中関係に果たした役割、アジア史のなかでの位置づけについて考えていくこととなる。したがって、研究の重点は近世以降の日本社会における「朝鮮出兵」（大陸侵攻）の語られ方を追究することにある。具体的には近世以降に編纂された関係古文書集の編纂意図や軍記物などの編纂物のなかで「朝鮮出兵」（大陸侵攻）がどのような位置づけをあたえられているのかについて検討を進める。

2. 研究の進捗状況

研究計画（1）に関しては、基礎資料の収集を進め、後年に編纂された史料集・古文書集の編集意図をさぐる研究をすすめて、『徴古雑抄』、『武家事紀』などに収録された関係資料の目録化をおえた。（2）についてはこれまでの期間、国立公文書館・国立国会図書館を中心に豊臣政権・豊臣秀吉・「朝鮮出兵」などに関する未刊行資料の調査・蒐集を計っ

た。これまでの調査によって集積した『豊臣秀吉譜』『朝鮮征伐記』『朝鮮太平記』『征韓偉略』『朝鮮戦談』『征韓紀略』などの基本資料に関するテキストクリティークを進めている。近世のものについては資料収集も一定の段階に達しているため、具体的な分析を開始した。朝鮮出兵とほぼ同時代の記録にみえる言説については「取り沙汰」される「唐入り」と題して論文にまとめ、朝鮮出兵の関する風聞や噂について分析し、後世の歴史叙述に与えた影響について論じた。また『武家事紀』などで「朝鮮出兵」に大きな比重を与えている山鹿素行については公開シンポジウムで、その思想史的な位置づけをおこなった。報告内容については九州大学韓国研究センターから今年5月以降に書籍化されることになっているが、ここでは素行の日本中朝主義に触れ、彼が近世における「朝鮮征伐」史観に基軸を与えた人物であるとの評価を試みている。さらに「馭戎概言」をまとめた国学者本居宣長について粗稿をまとめることができた。幕末にいたって、後期水戸学の比重がましてくるが、後期水戸学についても国立公文書館・国立国会図書館などの資料収集はほぼ完了しており、今後の分析対象となっている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。
主要な調査対象地である東京大学史料編纂所が研究期間中に耐震工事によって閉鎖されたので、当初の研究内容や方法に変更を必要が生じた。

4. 今後の研究の推進方策

既述のように、東京大学史料編纂所の閉鎖によって、研究計画に変更を生じた。当初は同時代的な研究の深化とともに、近代以降も分析対象にすえていた。計画の変更後は近世段階における「朝鮮出兵」の記憶・記録化に特化し、周到な分析を行うこととした。なお、昨年度末には史料編纂所も再開されており、近代以降の研究史についても展望的に補足することとしたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 中野 等、「取り沙汰」される「唐入り」、『九州文化史研究所紀要』第53号、1～35ページ、2010年、査読無
- ② 中野 等、「雑古雑抄」古文書十三(征韓文書)所収の古文書について、『九州文化史研究所紀要』第51号、1～37ページ、2008年、査読無

〔学会発表〕(計1件)

- ① 中野 等、近世通信使外交の裏側—山鹿素行における「文禄・慶長の役」の語られ方—、「辛基秀文庫開設記念ワークショップ グローバル時代の朝鮮通信使研究」、2009年11月7日、九州大学国際ホール、